

基礎学力の確実な定着を図るために

基礎学力の確実な定着を図るためには、児童生徒の学力はもとより、生活・学習習慣の状況、また、教員の指導の状況等を把握し、教育課程及び指導の充実・改善に取り組む必要があります。

そこで、学校の不断の改善に向けた取組を支援するため、学習指導要領に照らした児童生徒の学習の状況や意識等の把握を通して、本県児童生徒の基礎学力に関する課題や指導上の問題点などを明らかにすることを目的として「総合的な基礎学力調査」を実施しました。

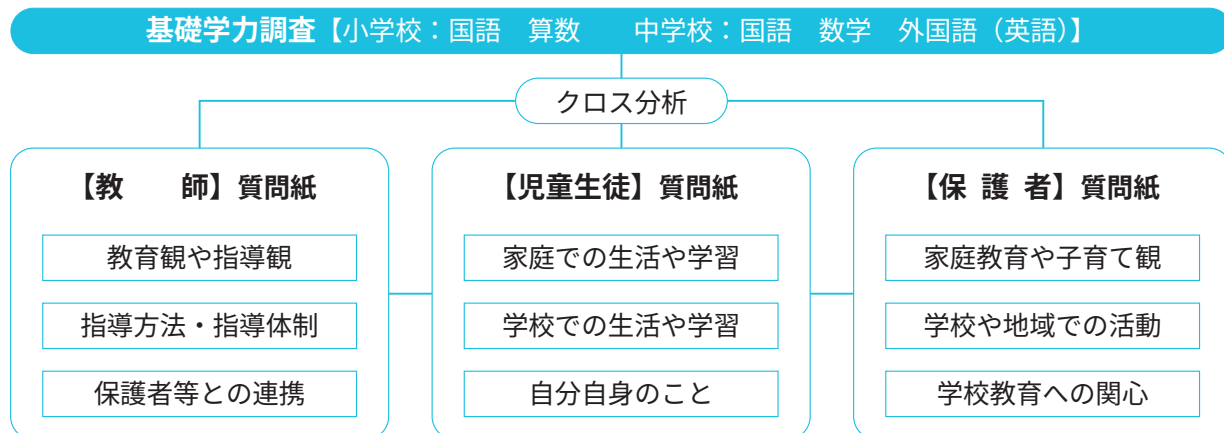
この調査の実施にあたっては、専門的な知識等を有する学識経験者や教員等からなる「基礎・基本の確実な習得を図る研究協議会」の協力のもと、調査問題の作成や分析等の作業を進めてまいりましたが、ここに、報告書がまとまりました。

ついで、本調査結果を参考に、各学校において、一層の指導方法の工夫改善を図り、「わかる授業」の創造と「教えるプロ」として期待される資質能力の向上に努められることを願っています。

● 調査目的

- ☐ 本県の児童生徒の基礎学力の定着状況を分析し、「確かな学力」の育成に向けた学習指導上の課題を明確にする。
- ☐ 児童生徒の生活や学習に対する意識・実態を分析し、基礎学力の定着に影響を与える要因を明らかにする。
- ☐ 豊かな体験活動や個に応じた指導等に関する本県の施策の教育効果及び課題を明らかにする。

● 調査内容



● 調査概要

- | | |
|--|---|
| <p>☐ 調査対象</p> <p>県内の公立小学校5年生及び中学校2年生</p> <p>【抽 出】 各教科、県下の児童生徒の約10%</p> <p>【児童生徒】 小学校：179校，9,735人
中学校：128校，12,837人</p> <p>【保 護 者】 22,168人</p> <p>【教 員】 580人</p> | <p>☐ 調査実施日</p> <p>平成16年3月3日～10日</p> <p>☐ 調査内容</p> <p>【ペーパーテスト調査】</p> <p>小学校5年：国語，算数
中学校2年：国語，数学，外国語（英語）</p> <p>【質問紙調査】</p> <p>児童生徒，保護者，教員</p> |
|--|---|

1

基礎学力の定着状況

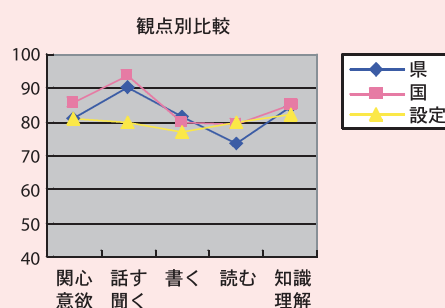
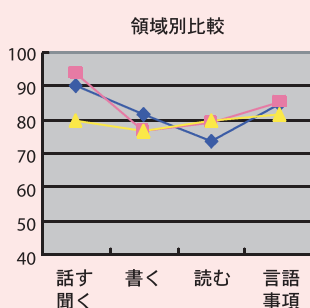
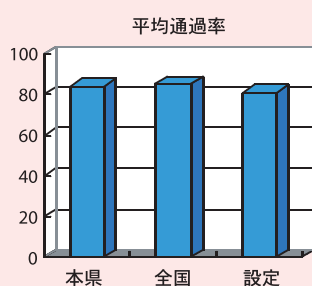
今回の調査結果によれば、本県の児童生徒の基礎学力は、全国状況（平成13年度国立教育政策研究所教育課程研究センター実施）と比較し、小学校国語・中学校国語・英語は「おおむね同程度」、小学校算数・中学校数学は「やや高い状況」であり、全体として「おおむね良好」である。

国語（小学校）

基礎学力の定着状況は、「おおむね良好」である。

本県の通過率は、全国の通過率と同程度であり、設定通過率との比較では、「上回る」問題と「同程度」の問題の合計が75%であることから、基礎学力の定着状況は「おおむね良好」と考えられる。

また、領域別・観点別の設定通過率との比較では、「話すこと・聞くこと」が高く、「読むこと」（説明的な文章）にやや課題がある。

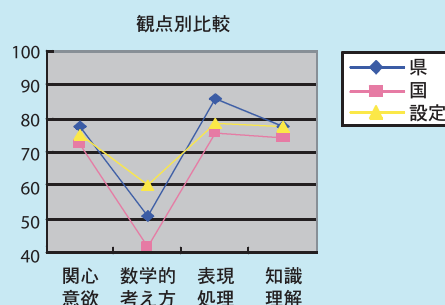
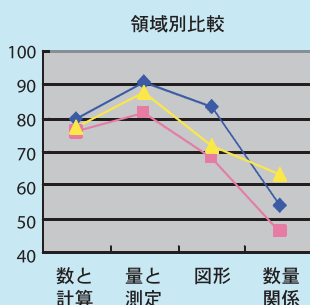
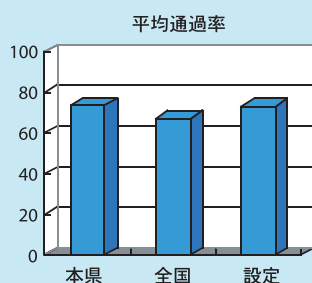


算数（小学校）

基礎学力の定着状況は、「良好」である。

本県の通過率は、全国の通過率よりやや高い状況であり、設定通過率との比較では、「上回る」問題と「同程度」の問題の合計が64%であることから、基礎学力の定着状況は「良好」と考えられる。

また、領域別・観点別の設定通過率との比較では、「図形」及び計算や作図の技能などの「表現・処理」が高く、全国状況と同様に「数量関係」及び見通しをもち筋道を立てて考えるなどの「数学的な考え方」にやや課題がある。



※ 通過率とは、問題を解答したときの正答の割合

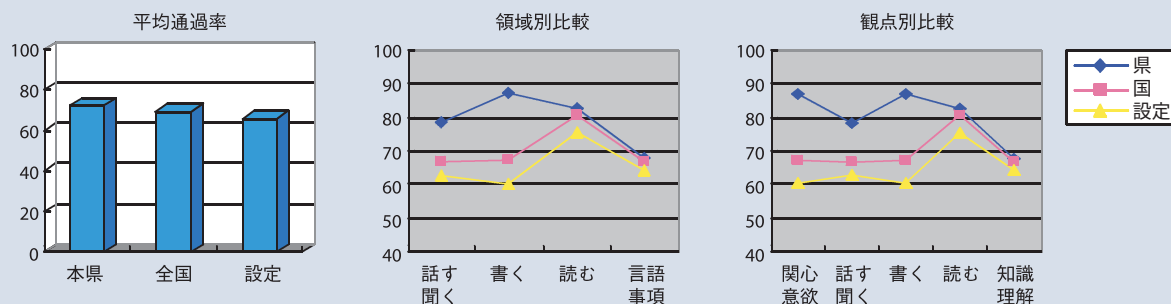
※ 設定通過率とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけ、学習指導要領作成時に想定された学習活動が行われた場合、個々の問題ごとに、正答、準正答の割合の合計である通過率がどの程度になるかを示した数値

国語（中学校）

基礎学力の定着状況は、「良好」である。

本県の通過率は、全国の通過率と同程度であり、設定通過率との比較では、「上回る」問題と「同程度」の問題の合計が83%であることから、基礎学力の定着状況は「良好」と考えられる。

また、領域別・観点別の設定通過率との比較では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「国語への関心・意欲・態度」など全般的に高い状況である。

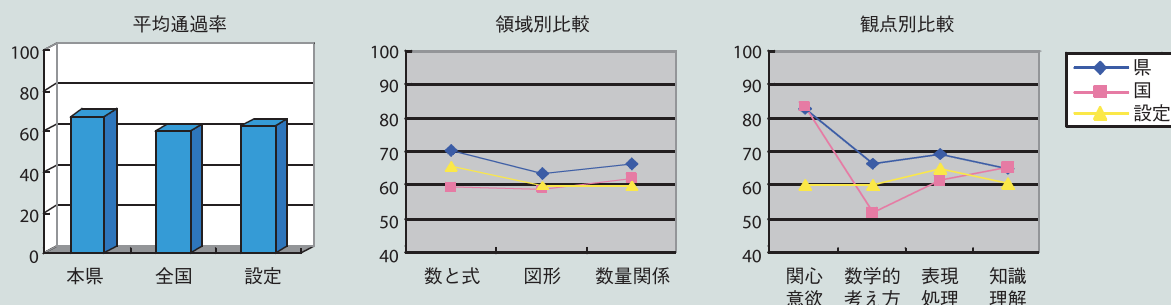


数学（中学校）

基礎学力の定着状況は、「良好」である。

本県の通過率は、全国の通過率よりやや高い状況であり、設定通過率との比較では、「上回る」問題と「同程度」の問題の合計が68%であることから、基礎学力の定着状況は「良好」と考えられる。

また、領域別・観点別の設定通過率との比較では、「数学への関心・意欲・態度」など全般的に高い状況である。

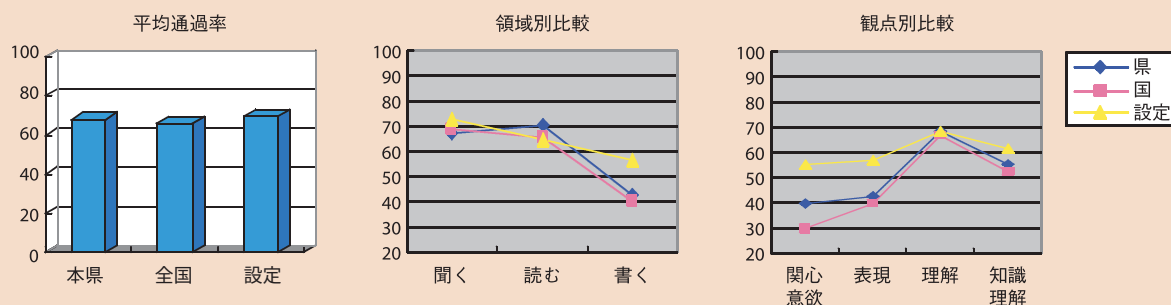


英語（中学校）

基礎学力の定着状況は、「おおむね良好」である。

本県の通過率は、全国の通過率と同程度であり、設定通過率との比較では、「上回る」問題と「同程度」の問題の合計が57%であることから、基礎学力の定着状況は「おおむね良好」と考えられる。

また、領域別・観点別の設定通過率との比較では、「読むこと」がやや高く、全国的狀況と同様に「書くこと」、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「表現の能力」に課題がある。



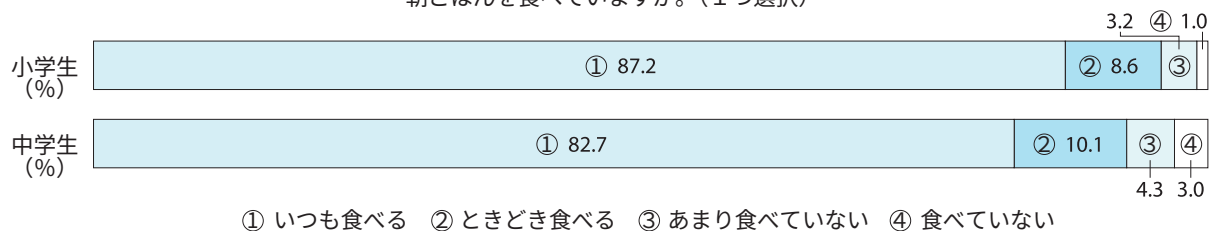
家庭での学習や生活

本県の児童生徒は、朝食をよくとるなど、比較的「基本的な生活習慣」がよく身に付いている。

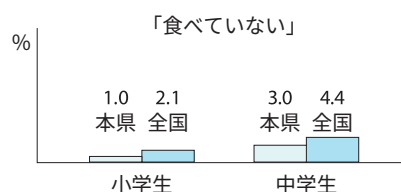
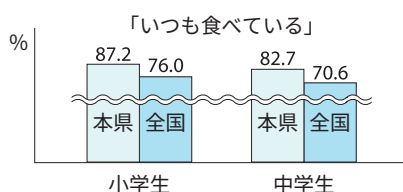
- 朝食について、小学生の約9割、中学生の約8割の児童生徒が「いつも食べる」と回答し、全国の調査結果より高い状況である。

児童生徒

朝ごはんを食べていますか。(1つ選択)



全国の状況との比較

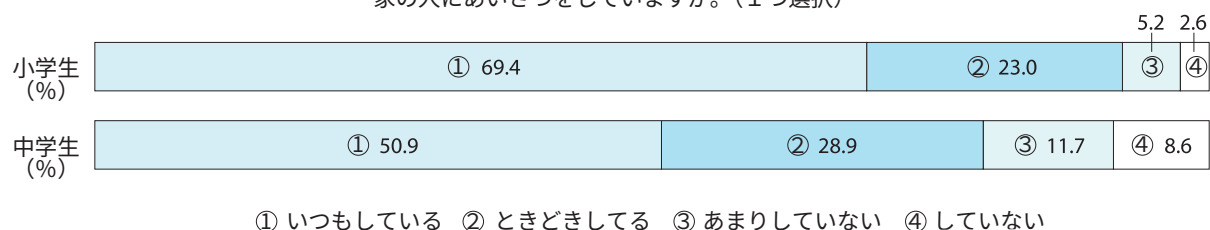


全国：「平成13年度教育課程実施状況調査」

- 「家の人へのあいさつ」について、小学生で約7割、中学生で約5割が「いつも」あいさつをしている。

児童生徒

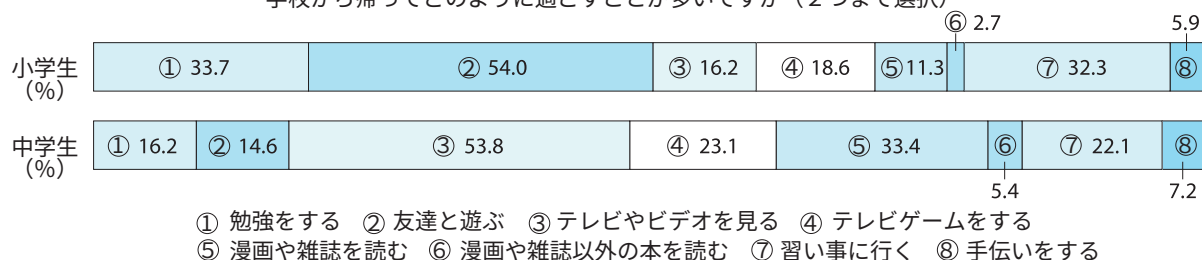
家の人にあいさつをしていますか。(1つ選択)



- 余暇の過ごし方について、小学生では「友だちと遊ぶ」が約5割、中学生では「テレビやビデオを見る」が約5割で最も多く、中学生になると一人で余暇を過ごすことが多くなる状況が見られる。

児童生徒

学校から帰ってどのように過ごすことが多いですか(2つまで選択)



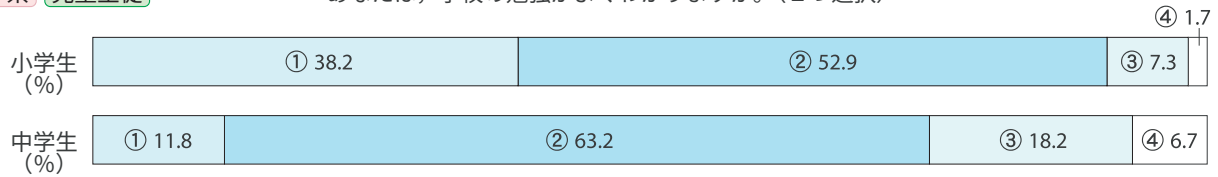
学校での学習や生活

本県の児童生徒の学習に対する理解度は高い状況である。

- 学校の勉強の理解度について、小学生の約9割、中学生の約8割の児童生徒が「よくわかる」「まあまあわかる」と回答し、全国の調査結果より高い状況である。

本県 児童生徒

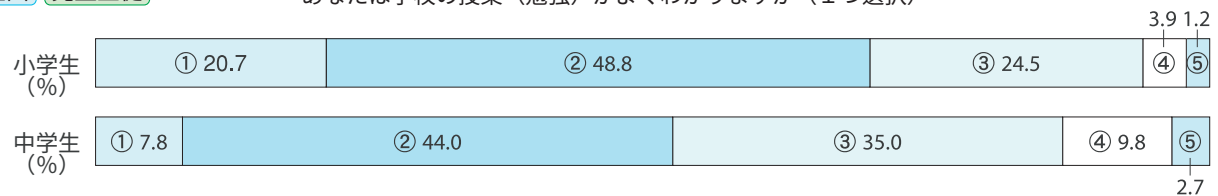
あなたは、学校の勉強がよくわかりますか。(1つ選択)



① よくわかる ② まあまあわかる ③ あまりわからない ④ わからない

全国 児童生徒

あなたは学校の授業(勉強)がよくわかりますか(1つ選択)



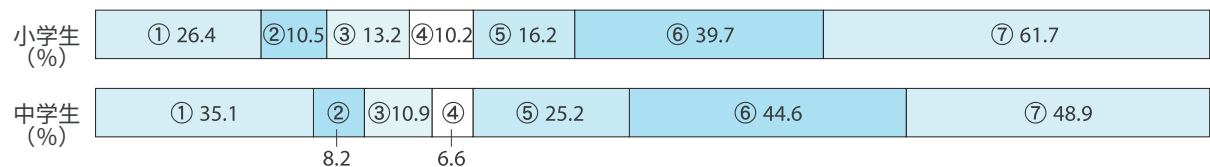
① よくわかる ② だいたいわかる ③ わかることとわからないことが半分ぐらいずつある
④ わからないことが多い ⑤ ほとんどわからない

全国：「学校教育に関する意識調査」

- 児童生徒が希望する授業は、小学生の約6割、中学生の約5割が「見学や観察、体験できる授業」で最も多く、次いで、小中学生ともに約4割が「何を勉強するか自分で選べる授業」と、体験的・問題解決的な授業や課題選択学習を希望する傾向が見られる。

児童生徒

どのような授業を受けたいですか。(2つまで選択)

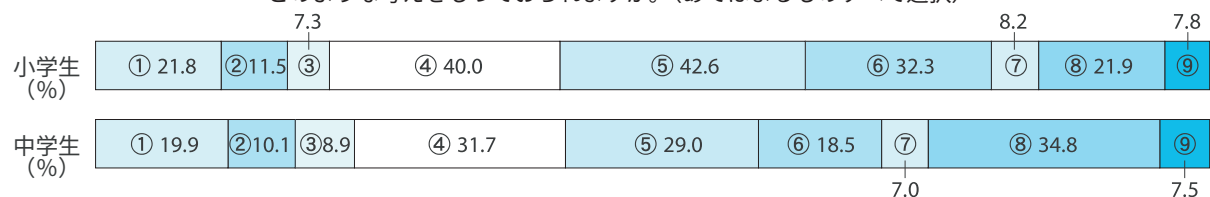


① 教科書等で先生が教える授業 ② ドリルや小テストをする授業 ③ 自分で考えたり調べたりする授業
④ 発表したり意見を言い合ったりする授業 ⑤ けじめがあって集中できる授業
⑥ 勉強内容を自分で選択できる授業 ⑦ 見学や観察、体験ができる授業

- 小学生の約8割、中学生の約7割の保護者が総合的な学習の時間を知っており、全国の調査より高い状況にあるが、その理解はやや不十分な傾向が見られる。

保護者

お子さんが通っている学校の総合的な学習の時間について、
どのような考えをもっておられますか。(あてはまるものすべて選択)

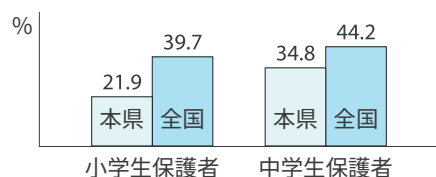


① 学び方やものの考え方の育成 ② 主体的に問題を解決する能力の向上 ③ 生き方を考える契機
④ 日常生活に生かせる知恵の育成 ⑤ 調べたり、まとめたりする力の向上 ⑥ 発表や表現する力の向上
⑦ 学校の指導に疑問 ⑧ 学校での学習内容がわからない ⑨ 必要性が理解できない

全国の状況との比較

保護者

総合的な学習の時間の「学習内容がわからない」と回答した保護者



全国：「学校教育に関する意識調査」

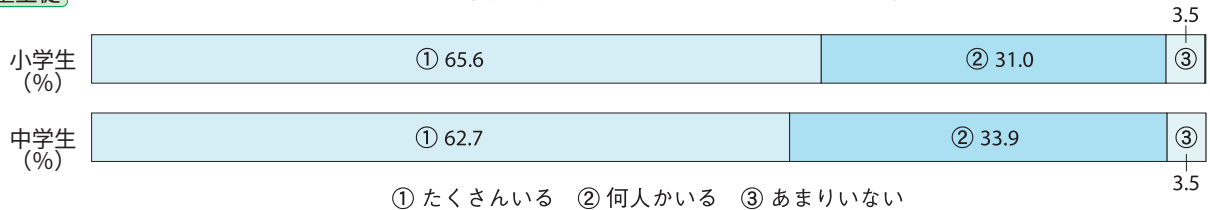
自分自身のこと

本県の児童生徒のほとんどが、クラスや学校に仲のよい友だちがいる。

- 小中学生ともに9割以上の児童生徒が「クラスや学校に仲のよい友だちが複数名いる」と回答し、約5割の児童生徒が「友だちから信頼されている」と感じている。

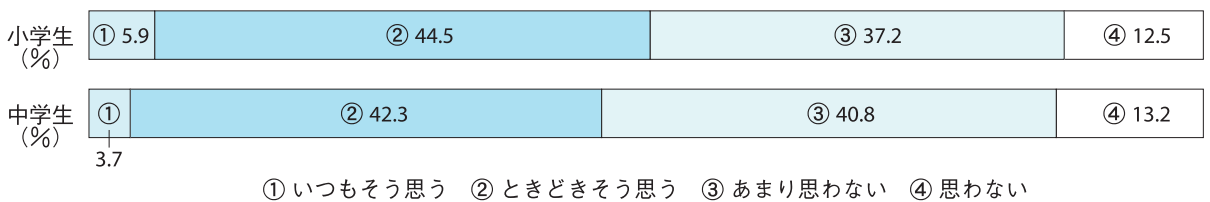
児童生徒

あなたはクラスや学校で仲のよい友だちはいますか（1つ選択）



児童生徒

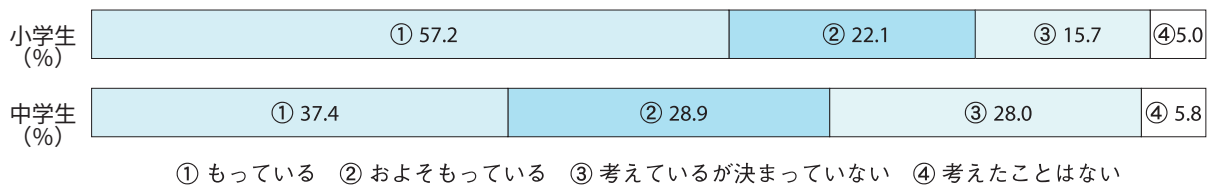
あなたは友だちからたよりにされていると思いますか。（1つ選択）



- 将来について、小学生の約8割、中学生の約7割が「つきたい職業などの夢や希望をもっている」と回答し、また、小学生の約7割、中学生の約8割の保護者が「子どもと進学や将来の仕事などについて話をする」と回答している。

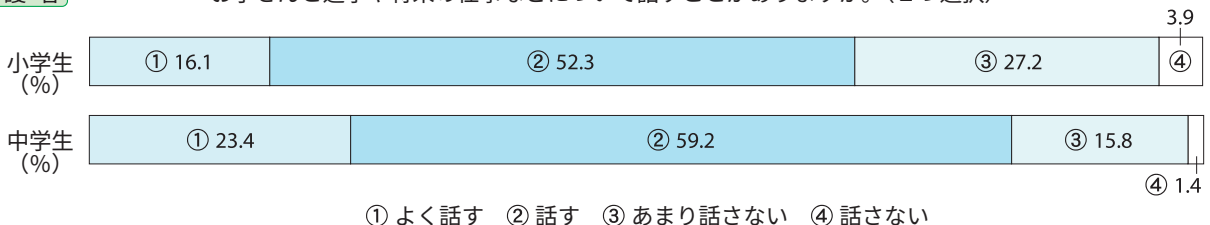
児童生徒

あなたは将来、つきたい職業などの希望や夢をもっていますか。（1つ選択）



保護者

お子さんと進学や将来の仕事などについて話すことがありますか。（1つ選択）



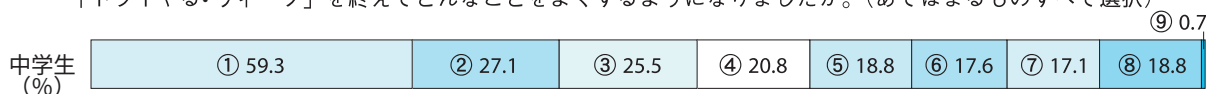
体験活動

「自然学校」・「トライやる・ウィーク」での体験活動について、児童生徒、教師、保護者がともに成長を実感している。

- 「自然学校」では約9割、「トライやる・ウィーク」では約8割の児童生徒が自己の成長を実感しており、教師の意識も同様の傾向が見られる。また、保護者も約7割が「自然学校」や「トライやる・ウィーク」の教育効果や子どもの成長を感じている。

生徒

「トライやる・ウィーク」を終えてどんなことをよくするようになりましたか。（あてはまるものすべて選択）



- ① 職業や働くことに対する関心が高くなる(59.3%) ② 家庭で将来の進路について会話(27.1%)
 ③ 自分の力でやり抜こうようになる(25.5%) ④ 社会のルールやマナーを守るようになる(20.8%)
 ⑤ 地域の人とあいさつや会話が多くなる(18.8%) ⑥ 親や地域の人々に感謝するようになる(17.6%)
 ⑦ 物事に我慢強く取り組む(17.1%) ⑧ 特に変化なし(18.8%) ⑨ 参加せず(0.7%)

少人数授業

新学習システムにおける少人数授業^(注)は、小中学生、教師ともにその有効性を高く評価している。

- 新学習システム（少人数授業）について、小学生の約9割、中学生の約8割が肯定的にとらえ、その理由として最も多い内容は、「わからないことを先生に聞きやすい」、次いで「先生の説明や話が聞きやすい」と回答している。

児童生徒

学級を半分に分けたり、2つの学級を3つに分けたりしてふだんより少ない人数でする授業についてどう思いますか。（あてはまるものすべて選択）

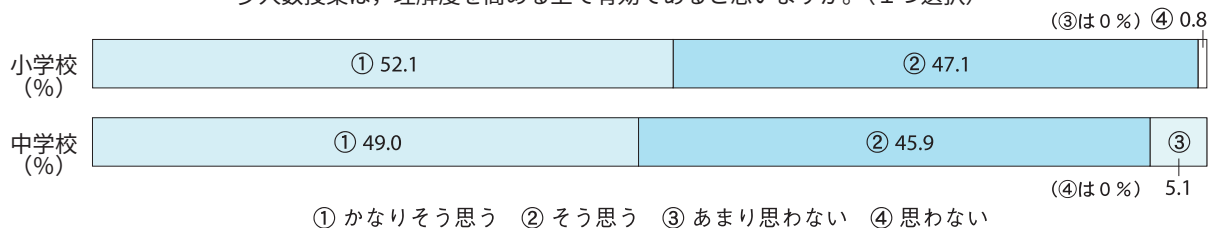
小学生 (%)	① 15.1	② 17.8	③ 11.1	④ 13.4	⑤ 12.2	⑥ 14.0	⑦ 12.9	⑧ 6.8
中学生 (%)	① 15.9	② 28.3	③ 12.8	④ 14.6	⑤ 19.4	⑥ 24.1	⑦ 15.7	⑧ 19.9

① 自分のペースで学習できる ② 質問がしやすい ③ たくさん発表できる ④ 勉強がよくわかる
⑤ 集中できる ⑥ 先生の話が聞きやすい ⑦ ノートなどをよく見てもらえる ⑧ 変わらない

- 新学習システム（少人数授業）の推進について、小中学校のほぼ全員の教師が「理解度」や「学習意欲」を高める上で有効であると考えている。

教師

少人数授業は、理解度を高める上で有効であると思いますか。（1つ選択）



(注) 新学習システムにおける少人数授業とは、学級編制を小規模にするのではなく、教科や学習指導の場面で個に応じたきめ細かな指導を行うために、学年（学級）をいくつかの少人数集団に分割して行う学習

教師の指導観

新学習指導要領の趣旨やねらいを達成するための教師の意識改革が進んでいる。

- 学校教育において、特に重視していることについて、小学校では約7割、中学校では約6割の教師が「考える力」・「表現する力」と回答するなど、知識・技能に加えて、思考力や表現力などの資質や能力を基礎・基本としてとらえ授業改善が進められている。

教師

学校教育において特に重視していることはどんなことですか。（2つまで選択）

小学校 (%)	① 11.7	② 34.2	③ 72.3	④ 39.7	⑤ 39.9
中学校 (%)	① 9.6	② 51.8	③ 62.4	④ 38.1	⑤ 32.0

① 自然体験などの体験的な活動の重視 ② 知識・技能を定着させる工夫 ③ 考える力・表現する力の重視
④ 主体的な学習の重視 ⑤ 読み、書き、計算などの繰り返し指導の重視

- 日頃の授業で特に重視していることについて、小中学校ともに約7割の教師が「児童生徒の興味・関心や課題意識を考慮した導入の工夫」と回答し、学習意欲の向上や自ら課題を見つける能力を育成することを重視している傾向が見られる。

教 師

授業で日頃から特に重視していることはどんなことですか。(2つまで選択)

小学校 (%)	① 66.1	② 17.8	③ 46.5	④ 31.1	⑤ 28.7
中学校 (%)	① 73.1	② 22.8	③ 27.4	④ 45.7	⑤ 19.3

① 興味・関心等を考慮した導入の工夫 ② 指導と評価の一体化 ③ 問題解決的な学習の工夫
④ 効率的な学習指導の工夫 ⑤ 学んだことを生活に生かす工夫

保護者の子育て観

保護者は子育てにおいて、思いやりや協調性などの豊かな人間性を育成することを重視している。

- 子育てにおいて特に重視していることについて、小中学生の保護者ともに「思いやりや協調性を育てること」が約7割と最も多く、次いで、「心身のたくましさ」や「正義感や責任感」「自主性や積極性」と回答している。

保 護 者

子育てにおいて、特に重視していることはどんなことですか。(2つまで選択)

小学生 (%)	① 31.0	② 73.0	③ 17.1	④ 30.6	⑤ 36.3
中学生 (%)	① 31.7	② 71.7	③ 16.0	④ 33.3	⑤ 33.8

① 自主性や積極性 ② 思いやりや協調性 ③ 確かな学力 ④ 正義感や責任感 ⑤ 心身のたくましさ

- 実際の子育てにおいて特に力を入れていることについて、小学生の保護者は「屋外で元気に遊ぶようにはたらしかけている」、中学生の保護者は「新聞記事の内容や社会の出来事などについて気軽に話し合い、関心をもたせている」が最も多く、ともに約6割となっている。

保 護 者

実際の子育てにおいて、特に力を入れていることはどんなことですか。(あてはまるものすべて選択)

小学生 (%)	① 19.0	② 10.3	③ 44.8	④ 16.7	⑤ 56.4	⑥ 31.2	⑦ 35.4	⑧ 48.9
中学生 (%)	① 14.3	② 8.4	③ 55.8	④ 24.3	⑤ 26.3	⑥ 22.1	⑦ 19.1	⑧ 55.5

① 勉強や読書をテレビより優先 ② 芸術や文化に親しむ ③ 社会の出来事などに関心
④ 家庭学習に集中させる ⑤ 屋外で元気に遊ぶ ⑥ 山や川で自然体験 ⑦ 習い事 ⑧ スポーツ

基礎学力の定着に影響を与える要因と指導方法の工夫改善(クロス分析の概要)

学校と家庭との連携

基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒や毎日30分以上読書をしている児童生徒ほど基礎学力が定着している傾向にある。また、学校の宿題に加えて予習や復習などに取り組んでいる児童生徒ほど、基礎学力が定着していることから家庭と連携して生活習慣や読書習慣、自主的な学習習慣を育成することが大切である。

- 起床・就寝・朝食・挨拶などの生活習慣が身に付いている児童生徒ほど基礎学力が定着している傾向が見られることから、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に取り組むことが大切である。

児童生徒

朝ごはんを食べていますか。

いつも食べている	上位 36.7%	中位 35.0%	下位 28.3%
ときどき食べている	上位 21.9%	中位 30.2%	下位 47.9%
あまり食べていない	上位 18.5%	中位 26.7%	下位 54.9%
食べていない	上位 8.9%	中位 28.9%	下位 62.2%

※すべての教科(算数を除く)に同様の傾向が見られる。(本構成比は数学)

児童生徒

家の人にあいさつ(「おはようございます」「ただいま」など)をしていますか。

いつもしている	上位 38.6%	中位 37.0%	下位 24.4%
ときどきしている	上位 31.3%	中位 35.6%	下位 33.0%
あまりしていない	上位 30.8%	中位 35.6%	下位 33.6%
していない	上位 23.7%	中位 34.3%	下位 42.0%

※中学校の各教科に同様の傾向が見られる。(本構成比は中学校国語)

- 毎日30分以上読書をしている児童生徒ほど基礎学力が定着している傾向が見られることから、学校で「朝の読書」等を行ったり、家庭での読書を奨励したりするなど、家庭と連携して読書習慣を育成することが大切である。

児童生徒

学校から帰って、1日にだいたいどれくらい読書をしめますか。

2時間まで	上位 39.4%	中位 35.3%	下位 25.3%
1時間まで	上位 36.8%	中位 35.1%	下位 28.1%
30分まで	上位 31.6%	中位 35.7%	下位 32.6%
ほとんどしない	上位 28.0%	中位 35.2%	下位 36.8%

※すべての教科(算数を除く)で同様の傾向が見られる。(本構成比は小学校国語)

- わからない問題をそのままにしている児童生徒ほど基礎学力が定着しにくい傾向が見られる反面、解決に向けた何らかのアドバイスを行っている家庭の児童生徒ほど、基礎学力が定着している傾向が見られることから、学校は学習への意欲を高め、学習方法を身に付けさせるとともに、家庭は子どもの学習に関心をもち、直接かかわっていこうとする姿勢をもつことが大切である。

児童生徒

家で勉強しているときにわからないことがあったとき、どう解決しますか。

自分で調べる	上位 40.6%	中位 33.7%	下位 25.7%
そのままにしておくことが多い	上位 17.2%	中位 26.5%	下位 56.3%

※すべての教科で同様の傾向が見られる。(本構成比は数学)

保護者

お子さんに勉強で分からないことを尋ねられたとき、どうすることが多いですか。

解決方法をアドバイスする	上位 41.8%	中位 34.5%	下位 23.7%
子どもと一緒に考えたり調べる	上位 36.8%	中位 34.7%	下位 28.5%
学校で先生に教えてもらうようながす	上位 28.0%	中位 34.6%	下位 37.4%
子どもと一緒に考えたり調べたりすることは少ない	上位 22.5%	中位 31.1%	下位 46.4%
友だちに教えてもらうようながす	上位 17.6%	中位 38.8%	下位 43.6%

※すべての教科で同様の傾向が見られる。ただし、小学校においては、「子どもと一緒に考えたり調べたりする」の項目において、その傾向は見られない。(本構成比は数学)

- ふだん家庭で、学校の宿題に加えて予習や復習などに取り組んでいる児童生徒ほど、基礎学力が定着している傾向が見られることから、家庭と連携して自主的な学習習慣を育てることが大切である。

児童生徒

あなたは、ふだん家でどのような勉強をすることが多いですか。

学校の宿題以外に予習をする	上位 39.5%	中位 30.6%	下位 29.8%
学校の宿題以外に復習をする	上位 37.9%	中位 37.5%	下位 24.6%
学校の宿題をする	上位 37.4%	中位 37.5%	下位 25.1%
学校で使う以外の問題集などをやる	上位 35.2%	中位 36.8%	下位 28.0%
ほとんどしない	上位 24.2%	中位 32.4%	下位 43.3%

※すべての教科で同様の傾向が見られる。ただし、小学校国語では、「予習」より「復習」や「問題集」の方が高い。また、算数・数学及び英語においては、「復習」より「問題集」の方が高い。(本構成比は中学校国語)

各学校の学習指導等の工夫

「学校の勉強がよくわかる」と思っている児童生徒や「やると決めたことは最後までやり通す」と感じている児童生徒ほど基礎学力が定着している傾向にある。また、授業以外で繰り返し指導などの時間を設けている教師から指導を受けている児童生徒ほど基礎学力が定着している傾向が見られることから、達成感が味わえる授業を工夫したり、根気強く学ぶ態度を育むとともに、学びの機会の充実に努めることが大切である。

- 当該教科が好きであり、学校の勉強がよくわかると思っている児童生徒ほど基礎学力が定着している傾向が見られることから、達成感が味わえる魅力ある授業を工夫することが大切である。

児童生徒

あなたは、学校の勉強がよくわかりますか。

よくわかる	上位 68.9%	中位 21.2%	下位 9.9%
あまりわからない	上位 10.8%	中位 31.0%	下位 58.2%
わからない	上位 9.3%	中位 18.2%	下位 72.5%

※すべての教科で同様の傾向が見られる。(本構成比は数学)

- 授業以外で計算や漢字などの練習問題に取り組む時間が週3日以上ある児童生徒ほど基礎学力が定着している傾向が見られることから、反復練習が必要な学習については、教育課程を工夫し、繰り返し指導する時間を適切に設けるなどの取組を進めることが大切である。

児童生徒

授業が始まる前や放課後など授業以外で計算や漢字などの練習問題に取り組む時間がありますか。

毎日	上位 41.0%	中位 32.6%	下位 26.3%
週に3日以上	上位 39.9%	中位 38.9%	下位 21.2%
週に1, 2日	上位 31.0%	中位 38.3%	下位 30.6%
ない	上位 30.8%	中位 31.7%	下位 37.5%

※すべての教科（算数を除く）で同様の傾向が見られる。（本構成比は数学）

- 「やると決めたことは最後までやる」と回答した児童生徒ほど、基礎学力が定着していることから、根気強く学ぶ態度を育てることが大切である。

児童生徒

あなたは、やるときめたことは最後までやりとおすほうですか。

やりとおす	上位 38.7%	中位 34.4%	下位 26.9%
ほぼやりとおす	上位 36.0%	中位 33.8%	下位 30.3%
あまりやりとおさない	上位 23.4%	中位 34.2%	下位 42.4%
やりとおさない	上位 19.0%	中位 29.4%	下位 51.6%

※すべての教科で同様の傾向が見られる。（本構成比は数学）

- 児童生徒による自己評価や相互評価などを取り入れている教師から指導を受けている児童生徒ほど、基礎学力が定着している傾向が見られることから、児童生徒一人一人の学習状況の把握に努めることが大切である。

教師

児童生徒による自己評価や相互評価など、指導に生かすための評価を工夫していますか。

よくしている	上位 35.5%	中位 36.8%	下位 27.7%
している	上位 37.2%	中位 34.0%	下位 28.9%
あまりしていない	上位 32.4%	中位 33.9%	下位 33.7%
していない	上位 32.6%	中位 32.6%	下位 34.7%

※数学と英語において、同様の傾向が見られる。（本構成比は数学）

- 総合的な学習の時間において、「学習方法がわかった」と回答した児童生徒ほど基礎学力が定着している傾向が見られることから、問題解決に向けての予想や仮説、構想をもち、それをもとに解決方法を工夫するなど、主体的に探求していく資質や能力を育てることが大切である。

児童生徒

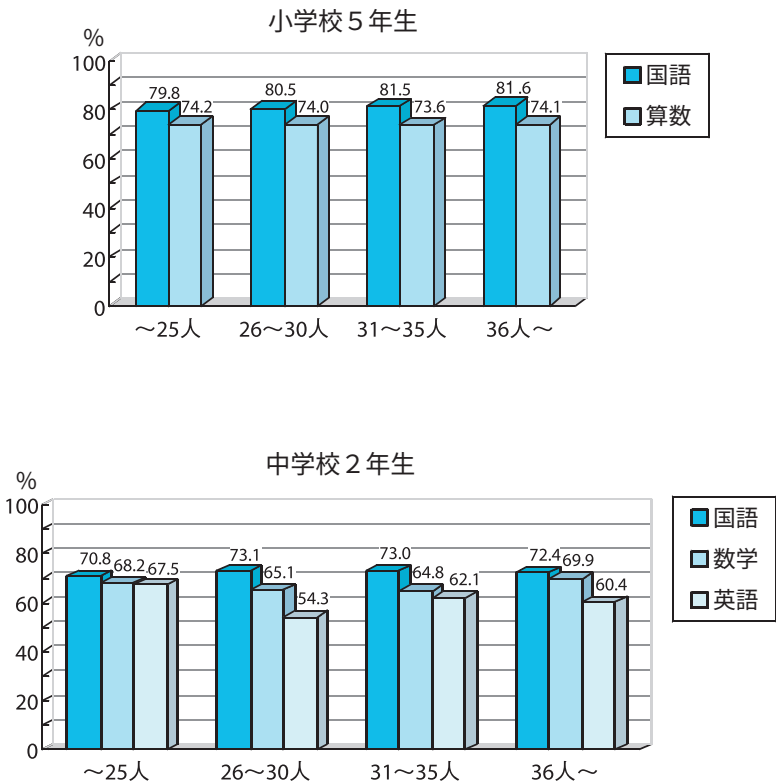
総合的な学習の時間についてあなたはどのように思いますか。

調べたり発表したりする学習方法がわかった	上位 40.8%	中位 33.9%	下位 25.3%
調べる方法などの学習の仕方がわからなかった	上位 28.7%	中位 35.2%	下位 36.1%
取り組みたいことを見つけれなかった	上位 29.2%	中位 34.5%	下位 36.3%

※すべての教科で同様の傾向が見られる。（本構成比は数学）

□ 学級規模と基礎学力の定着度については、学級規模が小さくても大きくても基礎学力の定着状況に差が見られない。一方、新学習システム（少人数授業）の推進においては、学習への意欲や理解度等を記録する個人カルテを作成するなど、指導と評価の一体化を図っている教師から指導を受けている児童生徒ほど基礎学力が定着していることから、少人数授業の実施においては、単に学級を少人数に分割するだけではなく、児童生徒の個性や可能性を伸ばす観点から指導方法の工夫改善を行うことが重要である。

学級規模別の平均通過率



教 師

少人数授業を充実させるために、どのような指導の工夫を行っていますか。

学習への意欲や理解度を記録する個人カルテを作成し指導に生かす	上位 39.3%	中位 34.7%	下位 26.1%
従来の指導方法と変わったところはない	上位 30.5%	中位 32.7%	下位 36.8%

※算数及び数学において傾向が見られる。(本構成比は数学)